

## 序

山本昌輝先生には、2021年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生のこれまでの御功績を称え、そして深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

山本先生は、長崎県のご出身で、1978年に京都府立大学文学部社会福祉学科をご卒業後、京都大学大学院教育学研究科教育方法学専攻修士課程に進学され、修了後には同後期課程に進学、1984年3月に単位取得後満期退学されました。同年4月に京都大学教育学部の研修員に着任された後に、1988年10月より京都市教育委員会の行政職カウンセラーを務められました。その後1990年4月に和歌山信愛女子短期大学保育科の助教授に、1996年4月には大谷大学文学部の助教授に着任されました。立命館大学文学部には2001年4月に教職課程の助教授として着任され、翌2002年4月に教授となられ、2005年4月に教育人間学専攻に移籍されました。以来、本専攻での臨床教育の中心的な役割を担う先生として、そして幅広い研究領域の専攻教員をまとめられる重鎮のお一人として活躍されてきました。学内行政でも貢献いただいております。専攻主任はもちろんのこと、2008年度には文学研究科長を、2017年7月から2020年7月までは大学の評議員を務められています。ユーモアがあり、かつ学生をよく見ていらっしゃる先生だからこそ、皆からの信頼が厚いということでしょう。

先生の研究領域は、心理療法、心理査定であり、精神分析学をもとに、日常の行動の背後にある、隠されている心の動きを分析し解明し、心理的対人援助に活かすことです。先生のこれまでのご経歴を拝見すると、まさに先生のご専門ならではといえるでしょう。また研究業績においても、箱庭療法やロールシャッハテストに関する論文等、心の動きの分析に関するものが目立ちます。日本学生相談学会、日本心理臨床学会、日本人間性心理学会、日本精神分析学会、日本精神分析的な心理療法フォーラムでも活躍されています。本号にご投稿くださった方々も山本先生のこれまでのご活躍の場の方々だと推察します。

人間研究学域教育人間学専攻において山本先生は、教育・研究を通して数多くの優秀な教育者・研究者を育成されてきました。2021年4月からは、特任教授として、引き続き教鞭をとってくださることになっています。今後とも、立命館大学、文学部・文学研究科へのご鞭撻を賜ることができれば幸いです。

2021年2月

立命館大学文学部長・文学研究科長  
中 川 優 子

